

平成26年度 新潟市音楽部 活動報告

部長 江口 陽子

1 研究主題

聴いて 感じて 考えて 音楽を楽しむ子ども

2 研究の概要

研究主題の『聴いて 感じて 考えて』とは、「音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断していく姿」である。また、『音楽を楽しむ子ども』とは、「思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする姿」である。

今年度は、昨年度の成果と課題を受け、目指す子どもの姿に迫るために、以下の3つの事柄に重点をおいて研究を進めた。

- (1) 指導と評価の一体化を図る。
- (2) [共通事項]の位置付けを明確にした題材構成をする。
- (3) 音楽科に即した言語活動の充実を図る。



3 研究の実際

新潟市を4つのブロックに分け、授業研究を柱としたブロック研修と全体研修の二つの柱を立てて研修を進めてきた。

ブロック研修では、代表による研究授業と全会員が指導案を書き、実践する一人一授業研究を行った。今年度は全員が「音楽づくり」の実践を行った。

(1) 指導と評価の一体化を図った実践例 (5学年)

題材名：曲想を味わおう

[共通事項] ア(ア)旋律 (イ)問いと答え、反復、変化

教材曲：(器) キリマンジャロ

- 器楽と音楽づくりを関連付けた題材構成
- 学習課題「音楽の仕組みをどのように使ったらいいだろう」に対し、教師は各グループのつくった音楽のよさを価値付け、広めていった。子どもたちはそのモデル演奏からヒントを得て、試行錯誤しながら、見通しをもって音楽づくりを行った。

(2) [共通事項]の位置付けを明確にした題材を構成した実践例 (1学年)

題材名：いろいろな声に親しもう

[共通事項] ア(ア)音色 (イ)反復、問いと答え

教材曲：(鑑)「ねこの二重唱」、(参)「ことりうた」

- 鑑賞と音楽づくりの活動を関連付けた題材構成
- 鑑賞を通して聴き取った音楽の仕組み「反復」「問いと答え」を「まねっこ」「おしゃべり」として子どもの言葉で理解させたことによって、音楽づくりに生かすことができた。

(3) 音楽科に即した言語活動の充実を図った実践例(4学年)

題材名：日本の音楽に親しもう

[共通事項] ア(ア)旋律・フレーズ (イ)反復

教材曲：(歌)「こきりこ」、(鑑)「ソーラン節」

- 5音音階による旋律づくりでは、個人でつくった旋律をグループでつなげる場を設定したことにより、旋律の動きや反復・終わり方を話合う姿が見られた。さらに、音の高さやリズムを視覚化して残すワークシートの工夫により、友達がつくった旋律が捉えやすくなり、グループの思いや意図を交流したり深めたりしながらグループの「こきりこのような音楽」をつくることができた。

4 成果と課題

今年度は、音楽づくりを中心に研究を行った。地域の祭りを継続して取材し、日本の伝統的な音楽の教材化を図るなど、教材開発が進められたことは大きな成果であった。

また、授業研究及び一人一授業研究において、構想カードを作成し、ねらいに正対したまとめ、まとめに正対した学習課題が設定できるように研修を進め、部員の授業力向上に努めた。来年度は、今までの研究の成果をまとめていくとともに、音楽づくりの授業のさらなる充実を図っていきたい。